

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 8 日現在

機関番号：32663
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2012
 課題番号：20530534
 研究課題名（和文） 岡山孤児院の養護実践の質的内容と同院の実践の日本社会への影響に関する研究
 研究課題名（英文） Studies on Qualitative Content of Child Care Practices at The Okayama Orphanage and The Okayama Orphanage Project Impacts on Japanese Society
 研究代表者
 菊池 義昭（KIKUCHI YOSIAKI）
 東洋大学・ライフデザイン学部・教授
 研究者番号：50258927

研究分野：社会福祉史

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：岡山孤児院、石井十次、児童福祉史、社会福祉史、養護実践史

1. 研究計画の概要

本研究は、これまでの一連の研究成果を前提に、未解明の研究課題である岡山孤児院の養護実践の質的内容と同院の実践の日本社会への影響を中心に分析する。特に、里預制や茶臼原農村づくりの歴史的意義、個々の職員の役割や出身者の成長過程、写真資料の内容分析、音楽幻燈(活動写真)隊や賛助員の全国的ネットワーク化の社会的役割、さらに岡山孤児院の実践の慈善事業(社会事業)への影響を解明していくことにする。

2. 研究の進捗状況

先の研究課題の中で、里預制の全体像とその歴史的意義についての研究から着手し、個々の出身者の成長過程を明らかにするための基礎資料となる大正期から昭和期の『日誌』5冊ほどの翻刻を実施した。また、1500枚ほどの写真資料の目録化とデータの収録を終了した。さらに、茶臼原農村づくりの歴史的意義を明らかにする研究と音楽幻燈(活動写真)隊の社会的役割についての研究にも着手している。

3. 現在までの達成度

達成度： やや遅れている

先の研究計画に基づき、現時点までの達成内容は次のようになる。調査の中で重要資料が見つかったため、里親に関する調査を集中的に行った結果、研究全体の達成度がやや遅れた。

里預制の全体像とその歴史的意義についての研究は、10件の論文にまとめた。個々の出身者の成長過程を明らかにする研究では、その基礎資料となる大正期から昭和期の『日誌』を5冊ほどの翻刻し、その1つを公

刊した。また、1500枚ほどの写真資料の目録を作成し、写真データの収録を終了した。さらに、茶臼原農村づくりの歴史的意義を明らかにする研究では、研究の概要に関する論文を1件まとめた。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、茶臼原農村づくりの歴史的意義、個々の出身者の成長過程、写真資料の内容分析、音楽幻燈(活動写真)隊の社会的役割などをまとめ、岡山孤児院の実践の慈善事業(社会事業)への影響を考察する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

菊池義昭「岡山孤児院の1920年から1925年の里預け終了児の個別事例の内容と特徴」『東北社会福祉史研究』第29号、1頁 - 40頁、2011年、査読なし

菊池義昭「岡山孤児院の1917年から1919年の里預け終了児の個別事例の内容と特徴」『ライフデザイン学研究』第6号、265頁 - 289頁、2011年、査読有

菊池義昭「茶臼原農村づくりと農場学校の概要」『石井十次資料館研究紀要』第11号、265頁 - 289頁、2010年、査読なし

菊池義昭「1917年から1926年の岡山孤児院の里預制の終息期と里親の地区分布の特徴」『石井十次資料館研究紀要』第11号、56頁 - 31頁、2010年、査読なし

菊池義昭『岡山孤児院の里預制の具体的な実践の把握 - 1912年前後の担当職員業

務日誌を通して - 』『ライフデザイン学研究』第 4 号、131 頁 - 167 頁、2009 年、
査読有

〔学会発表〕(計 3 件)

菊池義昭 田谷幸子「岡山孤児院の里預
制と里親地区の形成の考察 - 葛城村国ヶ
原での里親の専門性とネットワーク形成
を中心に - 」、日本社会福祉学会、2010
年 10 月報告

菊池義昭 田谷幸子「岡山孤児院の里預
制における全里親のタイプ別実態の分析
(2) - 専門的里親の基盤を探るために
- 」、日本社会福祉学会、2009 年 10 月報
告

菊池義昭 田谷幸子「岡山孤児院の里預
制における全里親のタイプ別実態の分析
- 専門的里親の基盤を探るために - 」、日
本社会福祉学会、2008 年 10 月報告